

大豆情報 第2号



JAとなみ野HP

令和 5年 6月 8日
JAとなみ野米作改良対策本部
となみ野農業協同組合
砺波農林振興センター

安定した収量・品質の確保に向けた管理のポイント

- 麦跡大豆の播種は、大麦の収穫後、速やかに行いましょう
- ◎ 培土は、適期に2回行いましょう
- ◎ 培土作業後は排水溝を確実に連結し、降雨による停滞水が発生しないように排水を徹底しましょう(⇒停滞水による湿害株を発生させない)
- 培土後に雑草の発生が見られたら、雑草の種類に応じた除草剤を散布しましょう

1 麦跡大豆播種 (大豆情報第1号参照)

- 目標栽植本数が確保できるよう、目皿とスプロケットの組み合わせを適切に設定しましょう。
- 播種の深さは3cm程度とし、苗立ちを揃えましょう。

2 培土 (営農日誌p102参照)

- 株元までしっかりと土がかかるように培土をしましょう。
- 1回目は、大豆の本葉が2~3枚の頃に子葉が埋まる程度まで土をかけましょう。
- 2回目は、大豆の本葉が4~5枚の頃に初生葉が埋まる程度まで土をかけましょう。



図 培土の効果と培土高さの目安

3 排水溝の点検

- 培土作業によって塞がった排水溝は、速やかに手直しましょう。
- 排水溝が額縁排水溝や排水樹と連結しているか、日頃から確認して連結していない場合や塞がっている場合は速やかに手直しましょう。

4 雑草対策 (営農日誌p102、107参照)

- 培土後に雑草の発生が見られたら、雑草の種類を確認して、下表の除草剤を散布しましょう。
- 帰化アサガオ類やヒユ類、イヌホオズキ類の発生が拡大し、増えています。早期発見に努めて、発生した場合には営農日誌107ページを参考に、早めに防除しましょう。
- 農薬使用後は散布器具をきれいに水洗いしましょう。また、農薬の使用記録はすぐに付けましょう。

表 雑草の種類と除草剤

| 雑草の種類 | 薬剤名 | 10a当たり散布量 | 使用上の注意 |
|---------------------------|-----------|-----------------------------|--|
| 一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く) | ポルトフロアブル | 薬剤 200~300ml +水 100ℓ | ・イネ科雑草の3~10 葉期まで ・収穫 30 日前までで、散布は1回のみ |
| 一年生雑草 (イネ科を除く) | 大豆バサグラン液剤 | 薬剤 100~150ml +水 100ℓ | ・大豆2葉期~開花期(雑草生育初期~6葉期)まで ・収穫 45 日前までで、散布は1回のみ |
| 一年生雑草 (帰化アサガオ類を含む) | バスタ液剤 | 薬剤 300~500ml +水 100~150ℓ | ・収穫 28 日前までで、散布は3回以内 ・畦間散布とし、大豆にかけない ・大豆5葉期以降の雑草生育期 |
| 一年生雑草 (広葉雑草が多い場合) | ロロックス | 薬剤 100~200g +水 70~150ℓ | ・大豆3葉期以降の雑草生育期 (雑草の草丈 15cm 以下) ・収穫 30 日前までで、散布は1回のみ ・畦間散布とし、大豆にかけない |

【 電話によるお問い合わせ先 】

| | | | | |
|------------|-----------|---------|---------------|---------|
| 砺波農林振興センター | 農業普及課 砺波班 | 32-8113 | | |
| となみ野農業協同組合 | 経済部 生産企画課 | 32-8619 | 資材配送センター・あぐり館 | 32-5440 |
| | 稲種センター | 82-0117 | 農業機械センター | 58-5520 |

次号(病害虫防除・灌水)は7月27日頃の発行予定です